

## JAL闘争を支える京都の会News No.96

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

# 国交省、JALに解決を決意 させるよう力を結集しよう！

2023年7月25日、大手筋商店街（京都市伏見区）でJAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「自立労連」、「合同繊維労組」、「米軍Xバンドリーダー基地反対・京都連絡会」の皆さんなど、猛暑の中計12人にご参加いただきました。今回の宣伝行動にはJAL乗員争議団副団長の和波宏明さんが参加しました。

和波さんは「2010年1月、JALは政府の方針で破綻と再建が進められた。そして、その年の大晦日にパイロット81名と客室乗務員84名を年齢と病欠歴を基準に整理解雇した。日本航空の破綻の原因は、必要のないジャンボ機を113機購入し、内4機は結局使わずにアメリカの砂漠に放置して修理が必要になるまで壊してしまうという無駄遣いや、ホテル・リゾート開発事業そしてドル先物買い、燃料先物取引等で数千億円という破格の含み損を出すという経営を繰り返してきたのが原因である。こともあろうに経営破綻のどさくさに紛れて年齢と病歴を基準に165名の労働者を解雇した。人は誰でも年をとり病気になる。整理解雇の選定基準として病歴と年齢が使われた。こんなことでは安心して生きていくことはできない。これは生きて年をとるすべての人たちにとって極めて重大な、自分たちにとっても極めて大きな関わりのある問題であるということをご理解いただいて、勝利の日までご支援をお願いしたい。」と訴えました。



会員のIさんは「13年前のちょうど今頃、日本航空JALは突如倒産をする、その再建をJALの新しい会長を地元の稲盛和夫さんが引き受けた。労働組合の大変嫌いな稲盛和夫さんは、この会社再建に名を借りてどさくさ紛れに闘う労働組合をつぶしてしまおう、そういう意図のもとにその中心メンバーであるベテラン

パイロット、キャビンアテンダント165名の首を切った。労使紛争を徹底的に闘われ12年と半年を数える。稲盛さんはお亡くなりになってしまったが争議団は13年近く闘い抜いている。稲盛さんはそのJALの再建の中で経営の神様と言われてあちこちの大きな本屋に行ったら本が平積みをされて稲盛和夫のなんとかかんとかという本が飛ぶように売れているそうであるが、本当に経営の神様となれたのはJAL165名の仲間の首切りの上にあったわけである。この日本には憲法28条と労働組合法がある。労働組合をつくって労働者が活動する自由があるわけであるが、そのことが嫌いで嫌いでたまらない稲盛和夫さん、会社再建に名をかりて労働組合つぶしを目的として165名の不当解雇をおこなって、私たちは今も闘い抜いている。最高裁では1勝1敗である。解雇無効を求める訴えでは負けたが、その再建過程で不当労働行為があったということでは私たち労働組合側が勝利をしている。そういった中で後始末をしないまま、あなたは逝ってしまわれたが、その後継者が今私たちのマイクを聞いているし、ビラも受け取っているはずである。ぜひ、京セラやJALの現役幹部は稲盛和夫の名を死んでもなお、汚すことがないように、1日も早くこの165名の不当解雇を撤回し解決をすべきである。せめて憲法や労働組合法を守って大きな



会社の経営者であつても経営すべきである。そのことを切に訴えて働く者の連帯のあいさつとさせていただく。私たちは165名があつた空に帰るまで闘い抜く。」と訴えました。自立労連のFさん、きょうとユニオンのKさんにもアピールしていただきました。

## 東京都労働委員会報告

**東京都労働委員会は山場に！  
国交省、JALに解決を  
決意させるよう力を結集しよう！**

現在、東京都労働委員会ではJAL（15回）と国交省（7回）を相手にそれぞれ調査が行われています。

JALは団交拒否、不誠実交渉義務違反、組合間差別（業務委託契約提案における差別）の3件で、国交省は団体交渉拒否で調査が進められています。

JAL事件については両者の主張がほぼ出そろったとし、国交省事件については国交省が組合の主張にもう反論しないとしていることから、今後は審問（裁判の証人尋問）を行うかどうかも含め、検討されることとなります。

組合からは両事件の証人申請書を次回までに提出する予定です。都労委は山場を迎えます。JALと国交省が解決を決意するよう今後の運動に最大の結集をお願い致します！

次回 宣伝行動

8月22日（火）

（呼びかけ JAL闘争を支える京都の会）

午後2時～3時 伏見・大手筋商店街